

## 5. サイン整備計画

### 5-1 整備の基本方針

山城地域のサイン整備における基本方針を以下に示す。

#### 基本方針1 「宇治茶生産の景観」への配慮

山城地域は、日本において最も長い歴史を有する茶産地のひとつであり、その茶生産及び当地域の風土により形成された日本茶業の理解のために欠くことができない重要な茶生産のさまざまな景観を見ることができる。

これらの景観については、宇治茶の価値を日本や世界の人々に伝え・共有し、人類共通の貴重な宝として将来にわたって継承していくため、宇治茶の世界文化遺産登録に向けた取り組みが進められており、平成27年4月には「日本遺産」に登録されたところである。

このような「宇治茶生産の景観」を将来にわたって継承していくために、「引き算の美学」の考え方により、景観を阻害するようなサインの新設は極力控え、サインの集約化、既存標識の除去・更新等、景観に配慮したサイン整備を行う。また、世界文化遺産登録のための要件や、「日本で最も美しい村」連合の基本理念にも配慮し、サイン以外のガードレール等の工作物についても、周辺の風景を遮らないピーム式等の形状とするなど、地域の茶畑や自然の風景を主役とした景観に配慮することが望ましい。

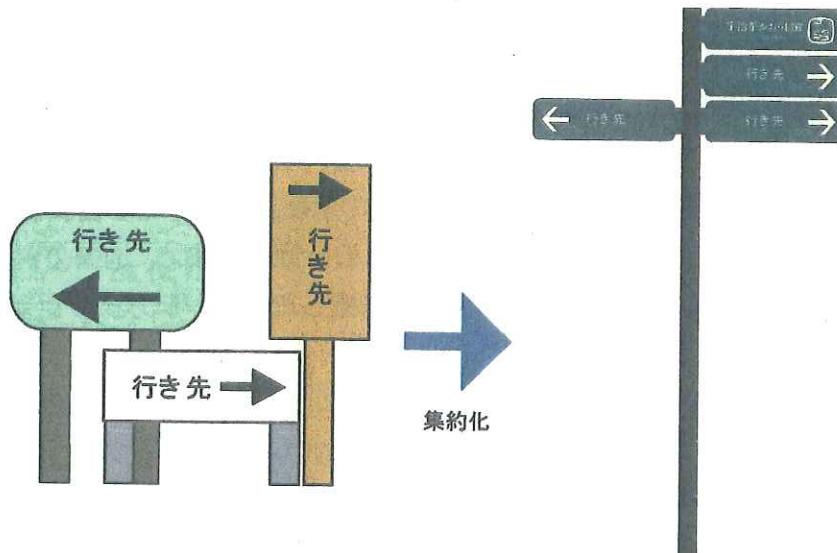


図5-1 サインの集約化

## 基本方針2 地域イメージの確立

山城地域は、『宇治茶を通した和の文化の継承と「お茶する生活」の実現』をコンセプトに「宇治茶の郷づくり」が進められている。

このような山城地域の「宇治茶」の景観や生産地としてのイメージを確立するために、地域の特性を反映した統一したサイン整備を行う。



図 5-2 多様な形態、意匠、素材、色彩の標識・サイン等の系統化による系統ごとの統一性の創出

広域に回遊する主要ルート上（階層①）では、山城地域全体での宇治茶かおり回廊のイメージの創出を図るため、道路上のサインを中心に、サインの形状や色彩等のデザインの統一を図る。

また、地域ルート（階層②、③）では、「お茶の京都」のマークや回廊名の記載などの共通デザインを基本としつつ、地域ごとの風景の特徴を踏まえ、地域の景観に馴染む色彩にするなど、主要ルートよりも地域特性に配慮したサインデザインとする。

## 基本方針3 地域住民参加によるサイン計画の調整

地域ルート（階層②、③）では、「お茶の京都」のワークショップ等の地域住民参加により、地域で案内する施設（誘導する施設）、サインの配置場所など、各地域でその特徴を紹介するサイン計画となるよう調整を図る。

地域主体で設置するサインについては、地域の住民や事業者が清掃や草取り等の維持管理を行うことにより、地域や回廊への愛着を深めていただき、おもてなしの機運の向上や継続的な維持管理につなげることが重要である。

#### 基本方針4 地域住民主体によるサイン計画

宇治茶をはじめとする地域の歴史、文化や資源を掘り起し、その価値を知ることは、愛着の持てるまちづくりに不可欠であり、地域のにぎわいの創出につながるものと考えられる。山城地域は12の市町村からなり、地域ごとにお茶に関わる特徴のある取り組みを行っていることから、「お茶の京都」づくりの一環として、地域ルートのサイン（階層②、③）について、共通デザインを基本としつつ、地域素材の活用による地域独自の案内板の設置、地域の方々による維持管理など、積極的に地域で検討することも可能とする。

その際は、地域住民や事業者による「お茶の京都」のワークショップなどを活用するとともに、デザインについては専門家を交えて、回廊のコンセプトに合う、周辺の景観を妨げないものとなるよう検討する。なお、サインの表示面については、「お茶の京都」のマーク、回廊名（フォント含む）の記載を統一するものとする。

#### 基本方針5 メディアの活用

「宇治茶かおり回廊」は、各市町村の「戦略的な交流拠点」や「日本遺産」のストーリーを構成する文化財をはじめ、さまざまな拠点・景観地を結び、山城地域の「宇治茶」の歴史・文化や魅力などを発信することになる。

このため、サイン整備と合わせて、様々な情報メディアやツールとの連携を行うこととし、回廊の移動手段となる公共交通機関の活用方法も含め、今後「お茶の京都」づくりで検討を行う。

## 5-2 サインガイドライン適用の考え方

本サインガイドラインにおいて、対象となる範囲とサインを以下に示す。

### (1) 対象範囲





山城地域内の「宇治茶かおり回廊」ルート（主要ルート、地域ルート）及び「戦略的な交流拠点」や拠点・景観地に設置するサインを対象とする。

ただし、地域内で観光ルートを設定し、誘導サインや案内サインなどを整備しており、それらを引き続き用いた方が効果的と思われる場合は、適用範囲から除外する。

### (2) 対象サイン

誘導サイン、所在サイン、案内板、解説板を対象とする。

表5-1 サインの体系

種別	機能概要	
① 誘導サイン	目標とする場所への誘導を目的に矢印や距離・時間等を用いて示す。	
② 所在サイン	設置場所の所在や名称を示す。	
③ 案内板	設置場所周辺の状況を、地図を用いて表示する。 広域の移動、地域内の移動を想定し、入口にあたる場所や滞留場所に設置する地域全体の位置図と施設や観光情報を表示する。	
④ 解説板	設置場所や観光資源、施設等の解説を行う。	

### 5-3 デザイン基準

#### (1) 基本デザイン

山城地域の「宇治茶生産の景観」を将来にわたって継承していくために、景観を阻害するようなサイン整備は極力控える。また、世界文化遺産登録への取り組みを見据え、各市町村の地域性を反映できるサインデザインとする。

そのため、山城地域の「宇治茶」の景観や生産地としてのイメージを表すシンプルなサインのデザインとし、統一を図る最小限の共通基準を設定したサイン計画とする。

サインデザインの共通基準として、「お茶の京都」のロゴマーク・回廊名称のレイアウト、フォント、形状を統一することとし、デザインイメージを以下に示す。

なお、「日本遺産」のロゴマークと併記する場合は、配置やサイズについて検討する。

横型

縦型

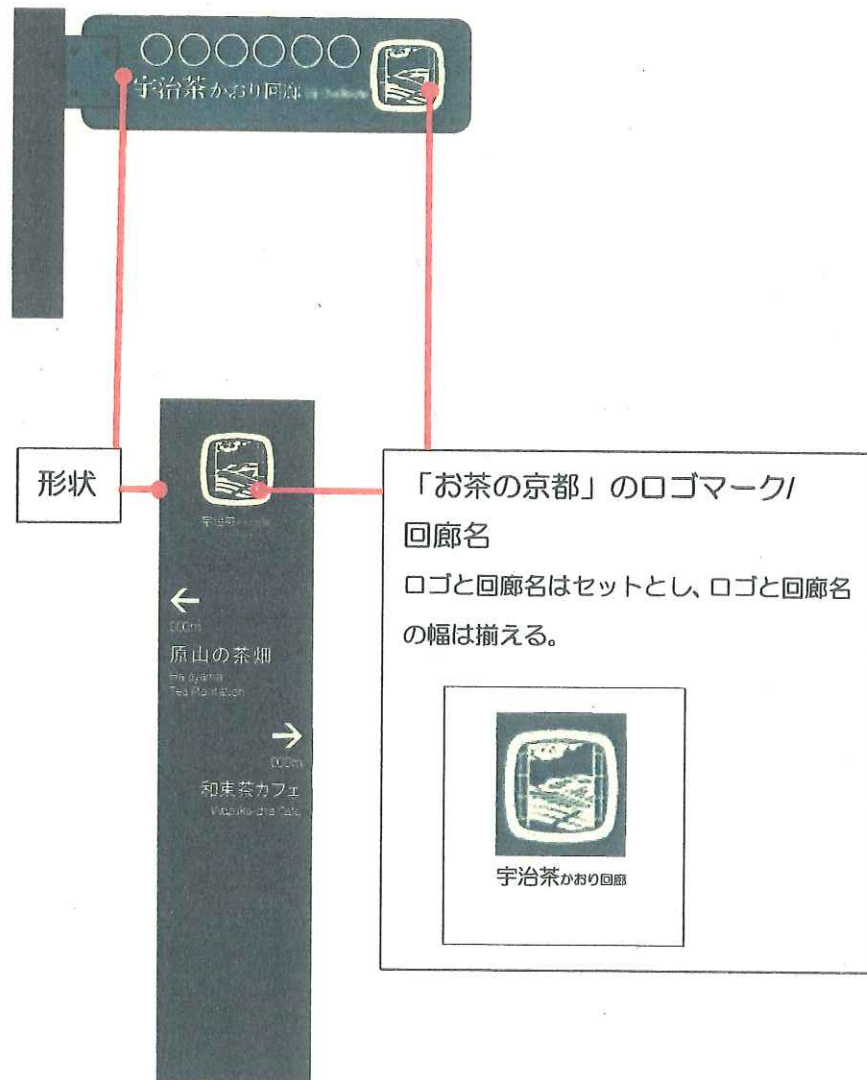


図5-3 デザインイメージ

### 1) マーク

「お茶の京都」のマークをシンボリックにワンポイントでサインに表示することとし、ベース色となる緑の上に白抜きで表現する。

### 2) 配置

お茶の京都のマークを先端に配置し、一目で「お茶の京都」に関わる回廊であることを示す。

地名は回廊名称よりも大きく表示し、目的地や現在地が明確に理解できるように示す。

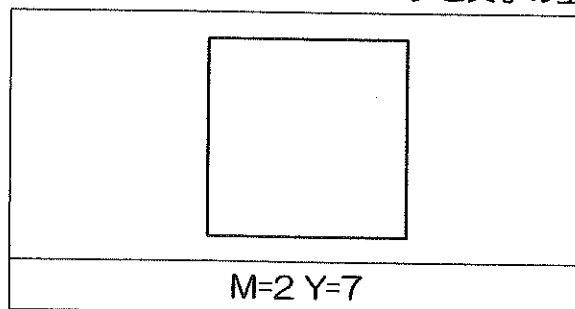
### 3) 文字

「宇治茶かおり回廊」の表記について、「お茶の京都」と字体を統一する。また、宇治茶の素晴らしさを国内外にアピールし、交流を通じた地域のさらなる発展につなげることが求められていることから、「宇治茶」を「かおり回廊」より大きく記載し、「宇治茶」を目立たせる。なお、外国語の表記については、「お茶の京都」づくりで訴求力の高いものを検討する。

### 4) 色彩

サインに共通して使用する色彩は、周辺の景観を妨げないように地域に存在する色であるダークグリーン (DIC-F279~DIC-F291)、ダークブラウン (DIC-N778~日塗工 C15-20B)、カームブラック (DIC-F200~C=100 M=100 Y=100 K=100) を基本色とする。お茶の京都のロゴマークと文字の色はベージュがかった白 (M=2、Y=7) とする。

表5-2 お茶の京都のロゴマークと文字の基本色



### 5) 光沢

表示基板は光沢のない素材とする。

## 6)形状

車両系誘導サイン・所在サインは横型の形状とし、角に丸みを帯びた型とする。

歩行者系誘導サイン・所在サイン、案内板、解説板は縦型角柱型とする。

### (2)サインごとに配慮すべき事項

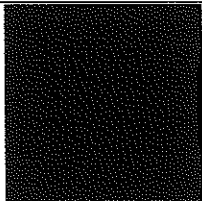
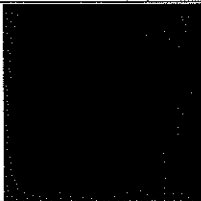
誘導サイン、所在サイン、案内板、解説板の基本的な形状を設定する。基本形状の設定においては、以下の配慮事項を踏まえることとする。

#### 1)車両系誘導サイン・所在サイン

##### ○色彩

- サインの色彩は、周辺景観を阻害しないよう、板面はダークグリーン (DIC-379)、ポールはダークブラウン(日塗工 C15-20B)を用い、彩度の低い色彩で統一感のあるデザインとする。
- 視点と視対象を考慮した配置とし、サイン表示板の色彩について、周辺景観との調和を図る。

表5-3 車両系サインの基本色

基盤・金物の基本色	支柱の基本色
	
DIC-379	日塗工 C15-20B

##### ○デザイン

- 情報伝達機能や構造上の安全性の確保に支障のない範囲で、できる限りシンプルでコンパクトなデザインとする。(例：支柱、梁の接続部にはボルトを見えないデザインとする。)
- 地域の特性や周辺の景観との調和に配慮するとともに、サインの機能に応じて、デザインの連続性、統一性に配慮する。
- サインの形状は山城地域に関係のある形状をモチーフとし、横型の形状は複数の板面が並んだ際に茶畑を連想させるよう、先端を角に丸みを帯びた形状とする。
- 既存サイン撤去、更新を実施する際に、基本形状を踏まえ、周辺景観に配慮したデザインを検討の上、施工を行うこととする。

2) 歩行者系誘導サイン・所在サイン・案内板・解説板

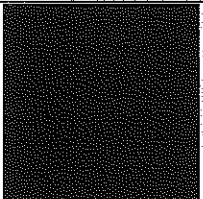
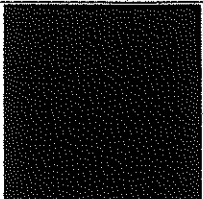
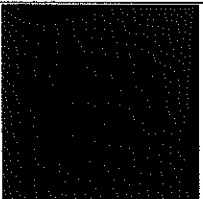
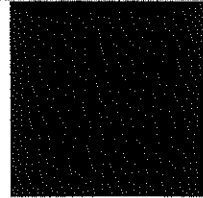
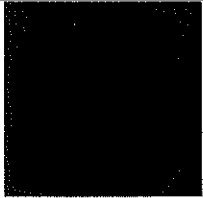
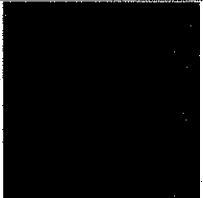
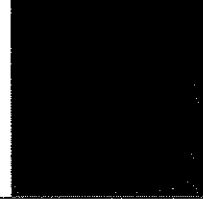
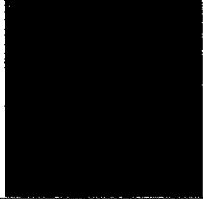

○色彩

- ・サインの色彩は、周辺景観を阻害しないよう、ダークグリーン(DIC-F291)、ダークブラウン(DIC-F256)、カームブラック(DIC-F132)を基本とするが、地域の特性により、以下の範囲で色彩を選定可能とする。
- ・色の選択については、各地域の風景の中で存在する色彩や地域の中にある基調色を使用し、地域の周辺景観に馴染むことに配慮する。色彩を選択する際は、色彩のサンプルをサインの設置場所に配置し、デザインの専門化の参加のもと、地域の周辺景観に馴染むことを確認する。
- ・案内板の地図面については使用する色が多くなり過ぎないように注意する。

表5-4 歩行者系サインの基本色

ダークグリーン	ダークブラウン	カームブラック
		
DIC-F291	DIC-F256	DIC-F132

表5-5 歩行者系サインの選定可能色彩範囲

ダークグリーン			
	DIC-F279	DIC-379	DIC-F291※基本色
ダークブラウン			
	DIC-N778	DIC-F256※基本色	日塗工 C15-20B
カームブラック			
	DIC-F200	DIC-F132※基本色	C100 M100 Y100 K100



以下に、異なる周辺景観の中で色の選定例を示す。

例)

茶畑や山など、緑系統が基調色となっているエリア→ダークグリーン



木造建築物など茶系統が基調色となっているエリア→ダークブラウン



建物の壁面の色などにより黒系統が基調色となっているエリア→カームブラック



## ○デザイン

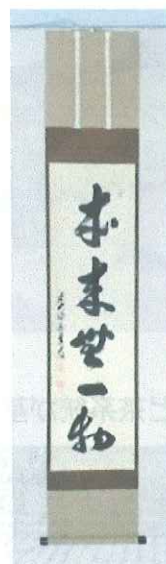
- 案内板については、山城各地に残る石碑や青製煎茶製法に用いられている焙炉をモチーフとした長方形とし、また、お茶室をイメージさせる掛け軸のように表示内容を板面の中央に寄せたデザインとする。サイズは周辺景観を阻害しないように厚みを薄くする。



「石碑」



「焙炉」



「掛け軸」

- 誘導サイン、所在サイン、解説板については案内板の形状と整合を図る。
- 地域の特性や周辺の景観との調和に配慮するとともに、サインの機能に応じて、デザインの連続性、統一性に配慮する。
- 既存サイン撤去、更新を実施する際に、基本形状を踏まえ、周辺景観に配慮したデザインを検討の上、施工を行うこととする。

## ○施工

- 案内板については施工場所に応じて泥はねの対応を行うこととし、周辺を砂利にするなど工夫を行う。

## ○表示内容

- 地域の特徴が表現できるよう、誘導する場所、案内地図で示すエリアや情報、解説板で解説する内容を、地域住民参加によりデザインの専門家も含めて決定することが望ましい。

## 6. 地域の取り組み活動

### 6-1 地域の取り組み内容

宇治茶をはじめとする地域の歴史、文化や資源を掘り起し、その価値を知ることは、愛着の持てるまちづくりに不可欠であり、それらの地域資源を活用して交流人口の増加を図る回廊の整備は、地域のにぎわいを創出するとともに、地域の再評価にもつながるものと考えられる。

回廊の整備においては、それぞれの地域の住民や事業者による「お茶の京都」のワークショップなどを開催し、伝えたい価値やおもてなしのあり方について話し合い、訪れる方々を心から歓迎し、地域の魅力を満喫していただけるような地域づくりを行う。

これらの取り組みを通じて、説明板の設置場所や記載内容の創意工夫はもとより、地域の魅力を体感できるメニューの創出、来訪者にもわかりやすいトイレや駐車スペースなどの案内、お茶の接待や休憩場所の提供など、地域をあげてのおもてなしができるような工夫を行う。

また、サインの表示面については、「お茶の京都」のマークと回廊名の記載、フォント、形状、色彩以外は、地域における検討により表示内容を工夫したり、地域の素材を活用したりできるようにする。その場合はデザインの専門家を交えてコンセプトに合うもの、周辺の景観を妨げないものとし、地元の意向確認や専門家の想いが互いに伝達できるよう〈地元+専門家チーム〉の共同作業を進めることが望ましい。



#### 事例1 「坂越のまち並みを考える展覧会」と「原寸モデルを用いた現場検討会」

赤穂市の市街地景観形成地区に指定されている坂越地区では、景観整備施策の一環として数年来〈まち案内〉のサイン整備を進めている。この取り組みでは、地元で活動している「坂越のまち並みを創る会」と、プランニング・歴史・建築・プロダクト・グラフィックの「専門家チーム」と行政担当者が集まり、サイン整備の計画を検討する会議のあと、展覧会・座談会などによりその結果を住民に公開して意見交換を行う公開型手順を年2回の割合で繰り返してきた。



## 事例2 重要文化的景観「佐渡西三川砂金山由来の農山村景観」笹川集落案内サインと地域デザイン

2011年、新潟県で初めて国の重要文化的景観に選定された「佐渡西三川砂金山由来の農山村景観」において、中心的集落である笹川集落に設置された来訪者のための公共サイン。デザインは、笹川集落の住民らによって構成される「笹川の景観を守る会（以下、守る会）」メンバーとこれからの集落の在り方も含めた議論をデザイナーやアシスタントを含めて進められた。2013年度に12基設置されたサインは、守る会のメンバーと一緒に盤面の取り付け作業を行い、地域に愛着を持って使って使い続けてもらえる公共サインの実現を目指し、2013年のグッドデザイン賞を受賞した。

### 6-2 地域による維持管理の仕組み

地域主体で設置するサインについては、地域の住民や事業者が清掃や草取り等の維持管理を行うことにより、地域や回廊への愛着を深めていただき、おもてなしの機運の向上につなげることが重要である。

また、地域の素材を活用することなどで地元企業の参画を図るとともに、住民と協働で維持管理や更新を行い、経済性や継続性を高めることも必要である。

## 7. メディアの活用

### 7-1 情報ツールとの連携

公共サインは、移動途中の現在地や目的地の方向・距離、円滑な移動に必要な経路や地点等の情報を提供する重要な情報発信ツールとなる。また、地域資源を案内するものとなり、山城地域の観光振興に寄与するものとなる。

そこで、様々な情報メディアツールと連携し、観光情報の受け渡しを行うことにより、効果的な観光プロモーションが期待できる。

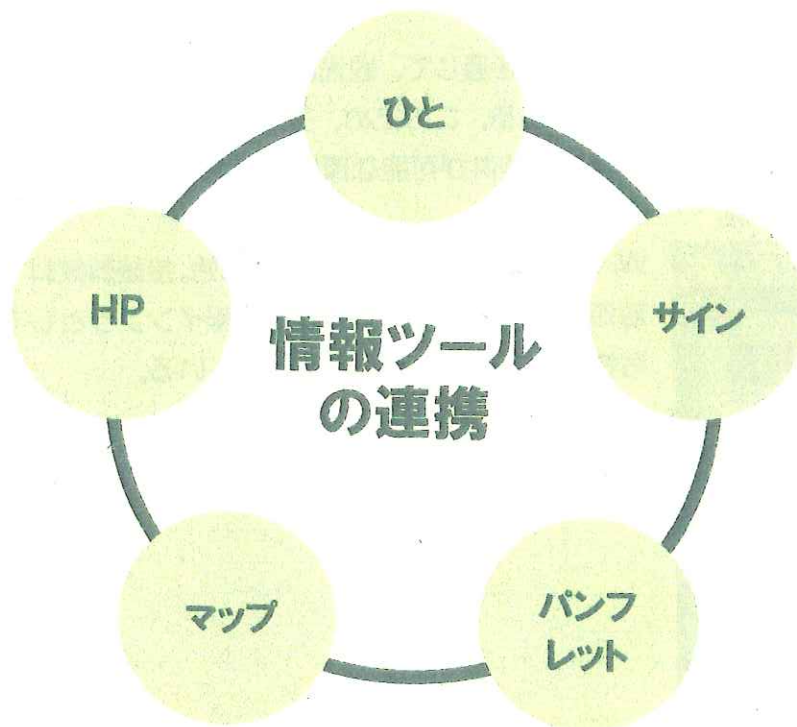


図7-1 情報ツールとの連携

### 7-2 具体例

#### (1) QRコードの活用

案内板や解説板の情報を補完するために、メディアツールの一つとなるQRコードの活用が考えられる。案内板や解説板にQRコードを添付することにより、詳細な情報やリアルタイムの情報などの入手が可能となる。



QRコード

#### (2) AR(拡張現実)の活用

AR技術を活用し、観光スポットで昔の歴史的建造物が表れ過去と現在の対比が楽しめたり、キャラクターによる観光案内をしたりなど旅の楽しさを膨らませることが可能となる。

◆広島市（広島P2ウォーカー）の例



平和記念公園内の記念碑にスマートフォンをかざすと、記念碑の解説が表示される。

(3)無料 Wi-Fi の整備

QRコードなどインターネットを通じて、観光地の位置や施設情報などを提供する場  
合、通信環境を整備する必要がある。このため、主要な観光施設などについては、無料  
Wi-Fi の整備を行い、観光情報の提供が可能な環境を整備する。

◆自動販売機の例



Wi-Fi 搭載自動販売機の展開の開始。接続料無料で、全てのWi-Fi  
対応機器で利用可能である。情報インフラとして、地域社会の  
活性化、災害時などにも貢献している。

◆キャリアの例



カフェやレストランなどの飲食店、待ち合わせの多い  
駅やターミナル、公共施設などに Wi-Fi が利用できる  
アクセスポイントが設置されている。

(4)ガイドマップ

「宇治茶かおり回廊」ルートと戦略的な交流拠点・地域の拠点や景観地等の情報を掲  
載した多言語のガイドマップを作成することにより、観光客が自由に観光ルートを検討  
することが可能となる。

(3)回遊ルートの設定

回遊ルート設定の考え方を踏まえ、宇治茶かおり回廊のルートを以下の通り設定する。

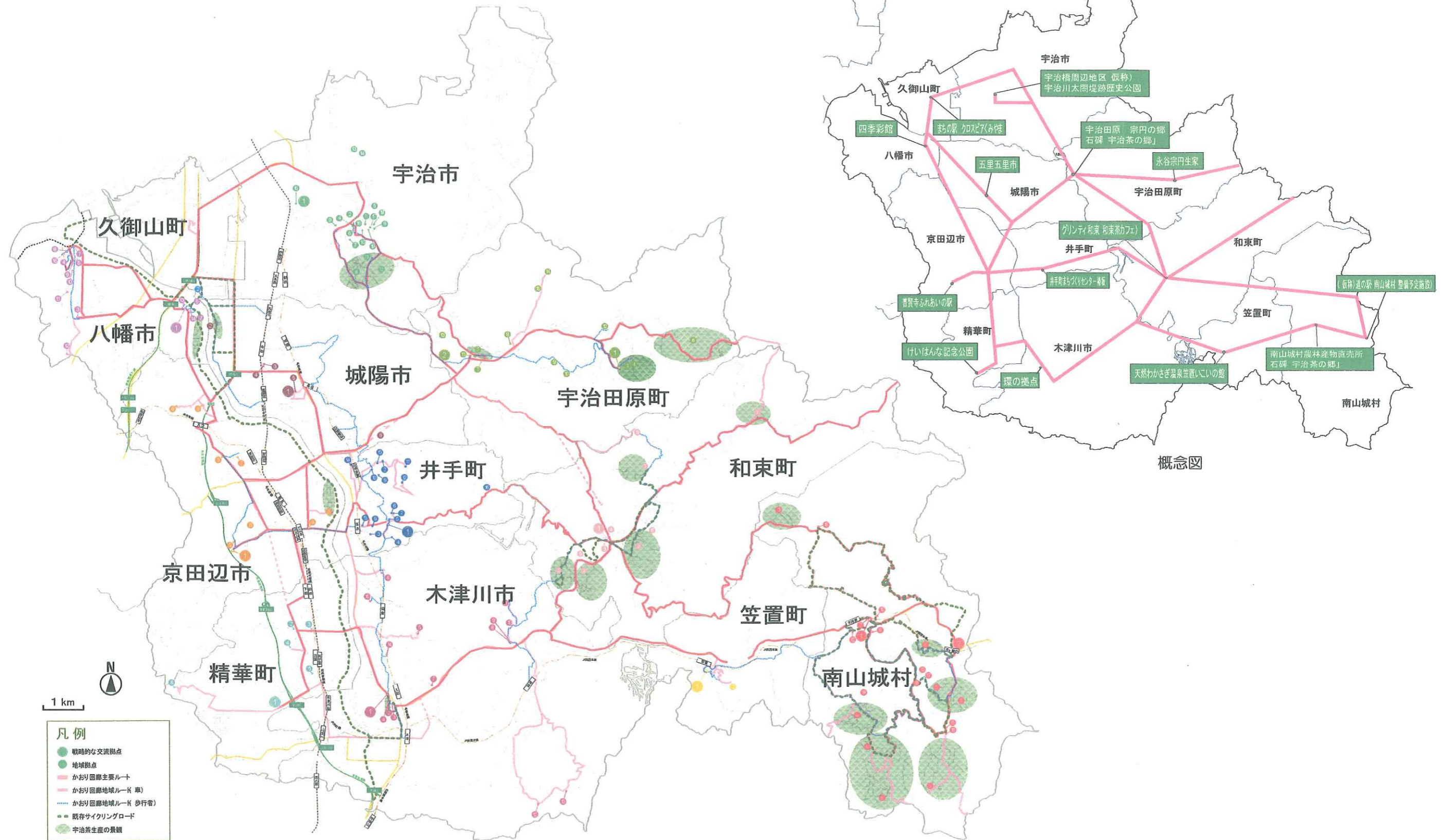


図4-4 宇治茶かおり回廊ルート